



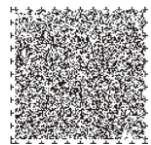
# もう 盲ろう

視覚と聴覚の両方に障がいがあり、目からも耳からも情報が得られない、または得にくいことを「盲ろう」といいます。見えにくさ・きこえにくさは一人ひとり異なり、生活環境や障がいの程度、障がいの発症時期により、コミュニケーション方法が違います。

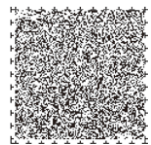
## 障がいの状態

### 「盲ろう」4つのタイプ

- 全盲・ろう**…全く見えず、全くきこえない状態
- 弱視・ろう**…少し見えて、全くきこえない状態
- 全盲・難聴**…全く見えず、少しきこえる状態
- 弱視・難聴**…少し見えて、少しきこえる状態



▲目の不自由な方のための音声コード



▲目の不自由な方のための音声コード



## 配慮

こんなサポートがうれしい!

### コミュニケーションの支援や移動の介助が必要な場合が多いです。

目と耳から入る情報が非常に少ないので、家の外を移動するのが困難になります。また、状況把握や、人とコミュニケーションをとるのが難しくなります。情報入手・コミュニケーションのサポートや移動の介助などの適切なサポートがあれば、自立生活や社会参加が可能です。

### まずは、普通の大きさの声で話し掛けてみてください。

困っている盲ろう者を見かけたら、普通の大きさの声で話し掛けてみてください。反応がなかったら、少し声を大きくしてみます。それでも反応がない場合は、きこえない方かもしれないので、手に軽くふれてみます。それからそっと手を取り、手のひらにひらがなで文字を書いてみてください。

### その方にあったコミュニケーション方法を見つけてください。

手のひらに文字を書く「手のひら書き」や、相手の手話に触れて手話の形を読み取る「触手話」、盲ろう者の指に直接触れて点字を表す「指点字」など、その方に合った方法でコミュニケーションをとってください。

### 周りの状況を説明することも大切です。

盲ろう者は、会話の内容だけでなく、周りの状況も分かりにくいです。「人がたくさん集まっていて、にぎやか」といったその場の状況を知ること大切です。会話の内容に追加して、伝えてください。

## 事例

例えば、こんなことがあります。

全盲・ろうの状態、一人でいるときに災害が起こったら、どうしたらよいか分かりません。周りに人がいるのかどうか分からないため、自分から他の人に話し掛けて、その場の状況を把握することが困難です。困ったり、孤立しているように見えたら、安全な場所への誘導や支援者につなぐなどの配慮をお願いします。



※ご相談・お問い合わせ先は、障がい福祉関係団体一覧(P46)又は相談機関一覧(P48)をご覧ください。